



ゆくさ、おさいじゃした! 桜島



第3号
2015年6月13日
【発行】
実行委員会事務局

【スローガン】国民と広く連帯し、患者・地域住民と医療・福祉労働者の人権・生命の尊厳を守ろう

開会あいさつ

社会保障拡充と軍事拡大路線は相いれない

医療研でともに学びあい、頑張る力を蓄えよう



開会あいさつ

中野千香子執行委員長

【要旨】

第42回医療研全国集會にご参加いただきありがとうございます。また、講師陣、分科会の方々、ご奮闘頂いている鹿児島や九州地方協会のみなさん、心から感謝を申し上げます。

さてこの間安倍政権は、昨年6月には「医療・介護総合法」、今年も「医療保険制度改革関連法」を強行しました。関連法は、全ての世代への負担増や、混合診療の拡大、国保の都道府県単位の悪内容です。国民の声を無視して、強行した背景には、企業の儲けの場と、社会保障を抑制し、戦争費を国に狙い、安政権の狙いがあります。オスプレイは1機2億円、えびは3機10億円で計36億円の削減、社会保障予算削減390億円の削減、社会保険料増徴、軍事拡大路線は相いれません。

5月に始まった戦争法案の審議で、安倍首相は「無責任なレッテル貼り、攻撃しなさい」と攻撃し、腹心の「戦列」に、国民が攻撃される、国民が危険にさらされている、主権者は国を危険にさらす、非難すればいい、と言いました。安倍首相の進め方は、平和を願う私たちを、国民無視のやり方に、日本中が怒りに立ちあがり始め、5月の川内原発再稼働反対の大集會は、2万5千人で成功しました。P.Pでも、日米閣僚の思惑を許さなない状況を生み出し、労働団体が共同、労働改良反対は、労働団体の共同、クシヨンを、ア案に向けて連帯が、強まっていきます。沖繩の新基地建設に反対する国民の連帯・団結も、大きく広がっています。

※募集は定員をこえたため締め切りました。

川内原子力発電所見学

知覧特攻平和会館 見学

【スケジュール】

鹿児島中央駅（8時半）
→知覧特攻平和会館（ガイドあり）
→知覧にて昼食
→川内原発→鹿児島空港（17時）
→鹿児島中央駅（18時）

市民フォーラム

本日13時～16時
共通教育棟3号館
1階311号室

広がる格差と貧困

～子どもの貧困問題を考える～

なくそう
子どもの貧困

【題字写真】開聞岳

開聞岳は、薩摩半島の南端に位置する標高924mの火山。日本百名山のひとつ。山麓の北東半分は陸地に、南西半分は海に面しており、別名「薩摩富士」とも言う。太平洋戦争では、知覧の陸軍飛行場から出撃した特攻隊機は、まず開聞岳へと進路をとり、富士山にも似たその山容に故郷や家族への別れを告げつつ南方へと向かったという。

伊藤周平先生
記念講演
【要旨】

社会保障改革の新段階と 対抗運動の展望

医療・介護・社会保障の充実を



「私は晴れ男」と話をスタートされました。15年度予算で社会保障費の自然増分8300億を4200億に抑制して防衛費にまわし、オスプレイも数機購入しようと

医療と介護の一本化で、病床を減らして医療費を削減して、退院者の受け皿は家族の助け合いやボランティア、地域の絆と

医療と介護の一本化で、病床を減らして医療費を削減して、退院者の受け皿は家族の助け合いやボランティア、地域の絆と

記念講演で講師の伊藤先生は「私は晴れ男」と話をスタートされました。15年度予算で社会保障費の自然増分8300億を4200億に抑制して防衛費にまわし、オスプレイも数機購入しようと

記念講演で講師の伊藤先生は「私は晴れ男」と話をスタートされました。15年度予算で社会保障費の自然増分8300億を4200億に抑制して防衛費にまわし、オスプレイも数機購入しようと

地域医療構想による病床転換と削減は、必要な医療も受けられない状況をつくり、改正医療法は国民に自己責任を押し付けようとしている。介護でもサービスの低下は常態化し、必要な介護も受けられない。要支援者が続出することが懸念される。国の特

一定の所得がある利用者の負担を2割に引き上げ、資産なども勘案され配偶者の所得や資産までも補足給付に勘案されることになった。これでは介護難民が増えてくるのは避けられない。介護報酬マ

イナス改定で介護職員の処遇改善は後退し、人手不足は深刻になる。安倍政権の医療と介護の社会保障改革は、国の責任を放棄し自己責任

ものとして放置するもので、それには立ち向かうには地域医療を守る運動を高め社会

保障削減に反対していく運動を拡大させることが必要と考

える。

一定の所得がある利用者の負担を2割に引き上げ、資産なども勘案され配偶者の所得や資産までも補足給付に勘案されることになった。これでは介護難民が増えてくるのは避けられない。介護報酬マ

イナス改定で介護職員の処遇改善は後退し、人手不足は深刻になる。安倍政権の医療と介護の社会保障改革は、国の責任を放棄し自己責任

ものとして放置するもので、それには立ち向かうには地域医療を守る運動を高め社会

保障削減に反対していく運動を拡大させることが必要と考

える。

伊藤周平先生の記念講演の感想をお聞かせ下さい。



【写真左】

石川民医労の松村知香さん(作業療法士)、酒井香織莉さん(作業療法士)

「入職してまだ3年目で、医療研は始めての参加で、講演の内容はちょっとむずかしかった。でも、介護報酬改定の中身を聞いて、自分にとって身近だと思えました。今後がどうなっていくのか心配になりました。職場でのスタッフの頑張りも聞いて、とてもよかったです」

【写真右】

◆現場の仲間と参加した埼玉民医労の浅沼陽子さん(看護師)

特に介護報酬が引き下げられるのは良くないし、制度が悪くなる方向で政府のいいようにされると思う。私たちの病院は7対1看護を維持するために現場が必死になっているが、国はそれを崩そうとしている。体制が維持できなければ月3000万円の減収となり、その時に私たちはどのように医療活動をすればいいのか不安だ。(参加した仲間の中には伊東先生の著書を持参した人もいます)

【写真左】北海道勤医労の小形亮子さん(看護師)

「私が勤務している地域では2015年4月の介護報酬改定により、多くの介護事業所が経営難から閉鎖となり、必要な時に必要な介護を受けることができない介護難民が増加しています。本日、伊藤先生の講演を聞いて介護保険制度を改善するには、全国でのたかいたと同時に地域の市民が地域で声を上げ行政に働きかけを行うことが大事だと感じました。北海道でがんばります！」

ゆくさ、おさいじゃした！ 参加者インタビュー

